



# IKUBOSS PRESS

昭和ボスから令和ボスへ ～新しい働き方、マネジメント、そして人生～

## 4 拠点でのイクボスワークショップ開催が決定!

イクボス 2022 ! の要となる取組みに、学校法人日本医科大学 5 拠点での管理職を対象とした「イクボスワークショップ」があります。開催予定が決定しました。

2022年 8月4日(木) 千駄木地区(終了)

12月13日(火) 武蔵小杉病院

2023年 1月20日(金) 多摩永山病院

2月7日(火) 千葉北総病院

3月23日(木) 武蔵境キャンパス

講師：川島 高之氏 (NPO 法人ファザーリングジャパン理事)

武蔵小杉病院、多摩永山病院、千葉北総病院では、診療部門の部長職、コメディカル部門の管理職、事務部門の管理職など 24 名が参加し、部下とのコミュニケーションや育成、チームビルディングについてディ

スカッションします。ワークショップ後には各病院の院長がイクボス宣言をする予定です。武蔵境キャンパスでは、日本獣医生命科学大学と日本医科大学基礎医学の教員や管理職が参加する予定です。計画を進めています。開催の様子は本誌で掲載します。



武蔵小杉病院 イクボス担当  
荻田あづさ、谷内七三子、田嶋華子



院内各部署の管理職が一堂に会し、あるべき上司の行動を考える画期的なワークショップです。積極的な参加と率直な意見交換により、新しい風が吹くことを楽しみに準備を進めています。



## イクボスが増えるとどんな効果があるの?

これまで IKUBOSS PRESS ではイクボスとは何かをお伝えしてきましたが、まだまだ本来の意味で認識されていないと感じています。子どもがいない、成人して子育ては終了したからイクボスは適任ではないなどと捉えている方もいるようです。

改めて、イクボスとは「職場で共に働く部下・スタッフのワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の両立)を考え、その人のキャリアと人生を応援しながら、組織の業績に結果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむことができる上司(経営者・管理職)のことです。つまり、人(部下)を育て、会社を育て、社会を育てるボスのことであり、子育ての経験の有無は関係ないのです。

では、組織にイクボスが増えるとどのような効果があるのでしょうか。川島高之氏によればこれらが挙げられます(図1)。

イクボスのマネジメントが浸透していると、誰もが安心して働き、能力を発揮することに繋がります。そうすると組織が活性化し、収益の向上、働く人が定着し、

「ここで働きたい」と思われる組織になり、優秀な人材の確保も実現します。

部下がいるから上司がいる、上司がいるから部下がいる。法人の目指すチーム医療においても欠かせないそんなイクボスの存在を当たり前にしていきましょう。

図 1

### イクボス組織は業績好調!

#### ① 部下と上司の「仕事力」がアップ

私生活(Life・Social)からのインプットで視野や人脈が広がる  
生活者視点を得る  
柔軟性、発想力、段取り力が高まる  
笑顔になる、意欲が高まる、踏ん張りがきく

#### ② 組織の「総合力」がアップ

人材採用にプラス、知名度と評判がアップ  
チームワークが向上、多能工が増える  
コミュニケーション活性化、情報共有が進む

#### ③ 組織の「リスク」が軽減

リスク：メンタル不全、労災、ハラスメント、離職率、隠蔽や不正、事故やミス、ブラック企業と見られる

